社会医療法人 近森会　院内広報誌

一歩先の医療、一つ先の未来。
CHIKAMORI
HEALTHCARE GROUP

ひろっぱ

Vol.471　2025.10

クラウドファンディング ご支援ありがとうございました

高知の命と医療を守る
「空の架け橋」プロジェクト

目標金額達成
13,241,000円

〈入江理事長プロジェクト〉地域でチーム医療「地域医療連携推進法人」

地域医療連携推進法人講演会2025 開催

近森コマンドセンター 本稼働

入江理事長の Project プロジェクト

近森会の今後の新しい
プロジェクトについて、順次ひろっぱでお知らせします。

社会医療法人近森会 理事長
入江 博之 いりえ ひろゆき
（地域医療連携推進法人
高知メディカルアライアンス 代表理事）

プロジェクト 10

地域でチーム医療「地域医療連携推進法人」

地域医療連携推進法人
高知メディカルアライアンス
KOCHI MEDICAL ALLIANCE

はじめに

チーム医療が叫ばれて久しくなりました。当院では全国に先駆けて2000年頃からチーム医療に取り組んできました。急速に進歩する医療は医師、看護師だけでできるレベルではなくなり、薬剤師やリハスタッフ、管理栄養士、臨床工学技士、ソーシャルワーカーといった異なった知識や能力を持った人たちが集まってチームで医療を行う時代になっています。

地域のチーム医療

チーム医療といっても、従来は単一の病院もしくは法人だけで行うことがほとんどでした。しかしながら医療法が改正され、2017年から地域医療連携推進法人（以下、連携法人）を設立することが可能となりました。この連携法人は、医療機関相互の機能分担や業務連携を推進し、地域医療の質と効率を高めることを目的としています。この構想の原点は、近森会の森田潔理事が、岡山大学学長時代に内閣府に提言し作り上げられたものと承知しております。

高知メディカルアライアンスの誕生

『高知メディカルアライアンス』は、2020年に高知県から正式に認可を受けて設立されました。スタート時には、社会医療法人近森会（近森病院／近森リハビリテーション病院）、旧医療法人松田会（近森オルソリハビリテーション病院）、医療法人OWL（みなみ在宅クリニック）の4医療機関が参加していました。

現在の取り組み

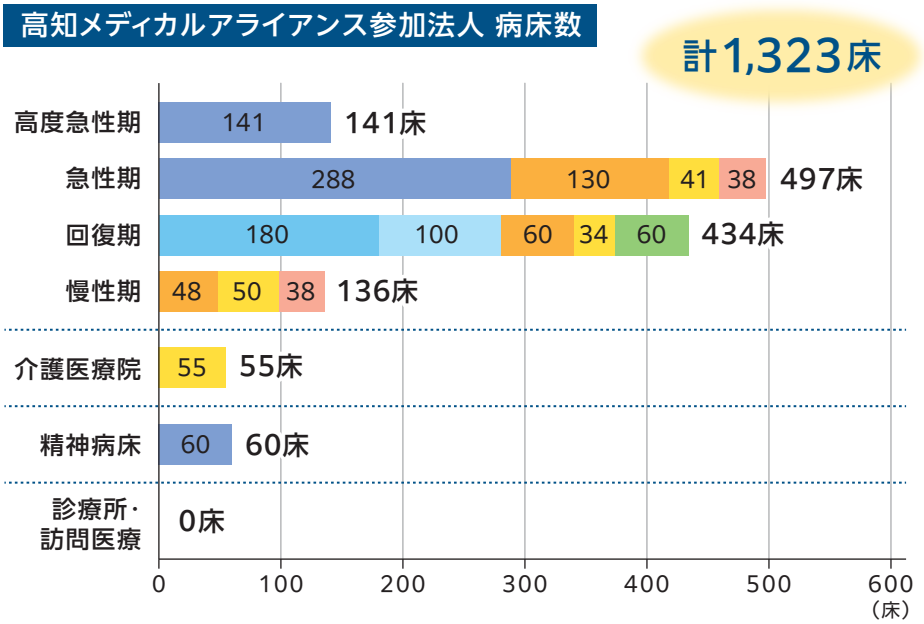
最近の人口減少並びに医療、介護分野の厳しい環境から、連携法人に参加してくれる医療機関や介護施設を増やすことを決めました。そこで最も重視するのは、患者さんのスムーズな転院、もしくは自宅での引き続きの医療環境を整備し「医療の切れ目」をなくす、つまり病院単位のチーム医療から、地域単位のチーム医療に連携の輪を拡げることにあります。

連携法人内での連携をスムーズにする方法として、プロジェクト5としてご紹介した「GEコマンドセンター」もこれに大きく貢献してくれるものと考えています。連携法人は少しずつ大きくなり、現在では、病院が合計7つ、診療所や訪問診療が4つで約1,300床＋在宅医療のグループが出来上がりました。本格稼働は9月以降となりますが、さらに2医療法人が参加を検討してくださっています。

おわりに

今後この連携法人でどのようなことが実際にできるのかまだ未知数ではありますが、私たちが目指すのは、予防から治療、在宅・介護までを見据えた一貫した医療提供体制を高知の風土を生かしながら築き上げることです。皆さんと共に、「地域全体で支え合う医療」を創っていきたいと思います。

高知メディカルアライアンス参加法人 病床数



※参加法人の各病院ごとに色を分けています。2025年9月現在。

講演会

地域医療連携推進法人講演会2025
「トラブルを未然に防ぐカルテの書き方」に学ぶ医療安全と法的リスク対応

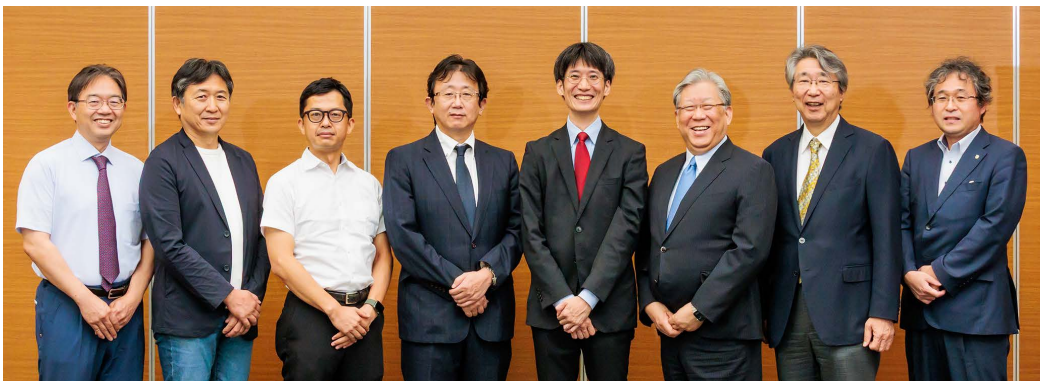
弁護士・医師　山崎（やまざき） 祥光（よしみつ）先生
弁護士法人御堂筋法律事務所／大阪事務所・広島事務所兼務
〈2025年7月30日〉

社会医療法人近森会 理事長　入江（いりえ） 博之（ひろゆき）

地域医療連携推進法人「高知メディカルアライアンス」の参加医療機関が大きく増えました。これをきっかけに、法人を構成する医療機関に役に立つと思われる内容の講演会を開催いたしました。

『「トラブルを未然に防ぐカルテの書き方」に学ぶ医療安全と法的リスク対応』というタイトルで、弁護士法人御堂筋法律事務所の山崎祥光先生にお越しいただきました。先生は医師及び弁護士両方のライセンスを持つ方で、2022年には講演と同名の著書を出版されました。まずは必要な医療をしっかりやって、それからカルテのことを考えるという基本姿勢を示されたのは、やはり医療経験がある上で法律的見識を積まれたからこそだと感じました。特に、「緊急処置後は忙しくても時刻毎の記載を関係者で再確認し記録しておく」「カルテ上で喧嘩をしない」等は、医療に従事する者にとって改めて心すべき内容でした。講演内容は医療安全研修も兼ねることができますので、必要な方はそれぞれの連携法人メンバーの施設でも視聴可能です。

講師の著書「トラブルを未然に防ぐカルテの書き方」を紹介する筆者。



左から、佐野内科リハビリテーションクリニック 院長 佐野良仁先生、みなみの風診療所 院長 今井稔也先生、みなみ在宅クリニック 院長 南大揮先生、いずみの病院 理事長 楠木司先生、講師 山崎祥光先生、筆者、近森病院 川井院長、近森会 寺田管理部長

駐車場の営業時間が変わりました 9/16～

	これまで		変更後
平日	P-5	7:00～22:00 ▶	9:00～18:00
土日祝日	P-5	7:00～22:00 ▶	9:00～18:00
	P-6	7:30～20:00 ▶	営業なし

※近森オルソリハビリテーション病院のタワー型駐車場は、ご来院者の利用はできなくなります。
※ P-7 は変更なく24時間営業いたします。

近森コマンドセンター 本稼働

～業務の効率化とチーム医療・地域連携の強化を目指す～

9/8より

看護DX推進部 部長
吉永 富美 よしなが ふみ

当院では、医療現場の業務をより効率的にし、地域の医療機関との連携を強めていくことを目的に、昨年12月から「GEコマンドセンター」の導入を進めてきました。そしてこのたび「近森コマンドセンター」として本格的に稼働し、2025年9月8日より正式に運用をスタートしました。

本システムは、院内のリアルタイムデータを一元化して見える化することで、患者さんに必要なケアをタイムリーに届けられるよう支援するツールです。限られたリソースを適切に配分することで、医療の質や安全性をさらに高めていくことを目指しています。

▲8月14日、高知メディカルアライアンス参加病院をご招待し、説明を行った。

近森コマンドセンターで導入した 3つの主要機能（タイル）

1 PM Patient Manager

■ 業務タスク管理

入院患者さんに対する1日のオーダー、検査、処置、看護ケアなどの実施予定を一覧化し、実施状況と連動させることで、業務の進捗をリアルタイムで把握できます。これにより、病棟マネジメントの強化および業務の効率化を図ります。

2 DT Discharge Tasks

■ 退院支援

退院に向けた課題を可視化し、調整状況を一目で把握できます。チーム全体で情報を共有することで、患者さんの状態に応じた、よりタイムリーで適切な退院支援につなげます。

調整可	病室	ID/氏名	科	医師	主病名	併存疾患	DPC	入院日数（退予）	入院前	退院先	介護度障害区分	サービス	課題	調整状況	情報
☑			脳		心原性脳塞栓症	多発脳梗塞	DPCⅡ 残6日	10				なし	①③⑤⑥⑧	なし	
☑			脳		症候性てんかん	誤嚥性肺炎 糖尿病	DPCⅡ 残7日	14			未申請・対象外	なし	①③⑥⑨⑩	なし	
☐			消		感染性肝のう胞	急性胆管炎	DPCⅢ 残0日	60			要介護2	あり		9/10	
☐			消		急性出血性十二指腸潰瘍	★十二指腸癌 肋骨骨折	DPCⅢ 残19日	11			未申請・対象外	なし	①③⑨	9/10	
☑			消		S状結腸軸捻転の再発		DPCⅢ 残21日	39			未申請・対象外	なし	①③	なし	
☑			脳		筋萎縮性側索硬化症	誤嚥性肺炎 呼吸不全	DPCⅢ 残45日	45			未申請・対象外	なし		なし	
☑			脳		アテローム血栓性脳梗塞・急性期	誤嚥性肺炎	DPCⅠ 残1日	7			未申請・対象外	なし	①③⑥	なし	
☐			消		総胆管結石		DPCⅠ 残0日	4			要介護4	あり	③⑧⑩	なし	

3 PA Patient Acceptance

■ 地域連携・転院調整

主治医から「退院調整可」の指示があり、かつ連携推進法人への転院が必要な患者さんがこのPAタイルに表示されます。本画面は連携推進法人内でも共有され、スムーズな転院調整を可能にします。

患者基本情報	主病名	併存疾患	入院日数	自立度等	転院目的	最終退院希望先	情報閲覧	①	②
	誤嚥性肺炎		12	自立度：C2　認知症：Ⅳ 行動制限：なし 要介護度：要介護4	療養				
	急性大動脈解離Ｓｔａｎｆｏｒｄ Ａ	脳梗塞	21	自立度：C2　認知症：対象外 行動制限：なし 要介護度：－	療養			☑調整中 9/10 条件次第	
	症候性てんかん	誤嚥性肺炎 糖尿病	14	自立度：B2　認知症：Ⅲa 行動制限：あり 要介護度：未申請・対象外	リハ	未		☐調整中 9/10 条件次第	
	アテローム血栓性脳梗塞・急性期	末期腎不全 2型糖尿病	11	自立度：B1　認知症：Ⅲa 行動制限：あり 要介護度：未申請・対象外	透析 リハ				
		肝細胞癌再発　ア		自立度：B2　認知症：Ⅱb					

近森コマンドセンターの活用により、患者さんにとって安心で質の高い医療の提供が可能になると期待しています。職員の皆さま、そして地域の連携施設の皆さまには、今後の運用にあたりご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

自衛隊来院

連携は日常から ～自衛隊衛生隊員 実習受け入れに向けて～

2025年7月28日

近森病院 救急科 部長　井原 則之 いはら のりゆき

陸上自衛隊の中川隆一第14旅団医務官、粕川雅弘第14旅団司令部4部衛生班長、中岡慶第50普通科連隊本部管理中隊衛生小隊長、14旅団司令部小野辰也氏の4名が7月28日に当院にいらっしゃいました。これは ①防災訓練時のヘリ運用 ②病院実習についての打ち合わせ を目的としたものです。

今年度下半期から、第14旅団に所属する看護師、准看護師、救急救命士ほか隊員らが病院での医療対応を学ぶため、当院での実習を開始します。これは救急外来のみならず、病棟での実習を含めてのものとなる見込みですが、詳細については今後院内各部署の皆さんとも相談して決定する予定です。

打ち合わせ後、病院見学を行った。

災害時などの非常事態において、相互理解と技術の向上は両者にpricelessな価値が生まれると信じています。

左より、近森病院 川井院長、近森会 入江理事長、陸上自衛隊 中川氏、粕川氏、筆者、陸上自衛隊 中岡氏、小野氏、近森会 寺田管理部長

院外組織との協力

連携協定の締結

川崎学園との包括的な連携協力に関する協定書の締結について

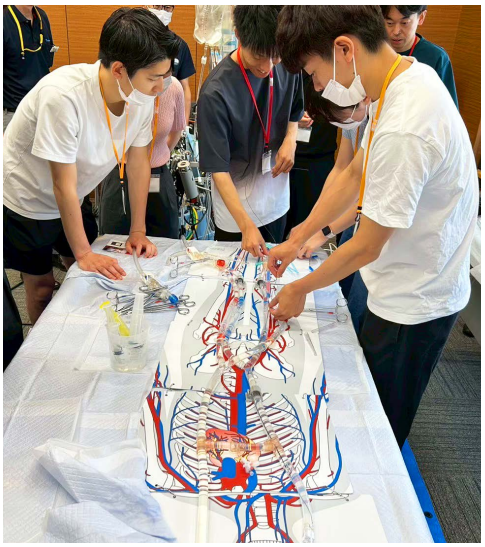
2025年7月29日

社会医療法人近森会
常務理事 兼 管理部長　寺田 文彦 てらだ ふみひこ

7月29日に、岡山県の「学校法人川崎学園」と「社会医療法人近森会」は、医療・保健・福祉・教育・研究などの分野において、双方の資源を有効に活用する活動を推進し、地域社会の持続的な発展に寄与することを目的として、「包括的な連携協力に関する協定書」を締結しました。

今後は圏域をまたいで、少子化における看護師養成学校に入学する学生および卒業後に看護師として活躍する職員の確保のために、入学試験・奨学金制度などを学生目線で調整します。また、既存スタッフについては、人材交流、研修制度の充実などでキャリア支援を行い、より実践的かつ持続可能な医療体制の構築に取り組んでまいります。

左から、川崎学園 三宅康晴事務局長、川崎医療福祉大学 宮川健副学長、川崎学園 秋山祐治副理事長、近森会 入江理事長、岡本統括看護部長、筆者



四国若手循環器セミナー

ブートキャンプ

（日本循環器学会四国支部若手委員会）

アツい2日間　2025年7月26・27日

近森病院 循環器内科　西村 祐希 にしむら ゆうき

今回は高知県が主幹で

四国若手循環器セミナーを近森病院で開催しました。四国支部の若手委員が中心となり、循環器内科に興味を持つ初期研修医や循環器内科の後期研修医を対象としたハンズオンセミナーです。

普段触れる機会の少ない最新の機器や技術を

今回のセミナーでは、PCI、アブレーション、エコー、SHD（構造的心疾患）治療、補助循環など、循環器内科の幅広い分野のハンズオンを体験できるプログラムを用意しました。各業者さんのご協力により、普段なかなか触れる機会の少ない最新の機器や技術に直接触れることができ、参加者の皆さんにとって貴重な学習の場となりました。また懇親会でも、四国各地から集まった若手医師同士の交流が深まり、熱意を肌で感じた本当にアツい2日間でした。

このセミナーにはちょっとした歴史があります。実はコロナ禍などの影響で一時は開催が難しくなってしまいましたが、昨年、細田部長を中心とするメンバーの尽力により見事に復活を果たしました。そして今年も無事に継続開催することができたことを、本当に嬉しく思います。

研修医時代の特別な思い出

僕自身も、研修医の時にこのセミナーに参加した経験があります。その時に循環器内科の面白さや奥深さを知り、現在の進路を決めるきっかけとなりました。そんな個人的な体験もあって、今回のセミナーには特別な想いを込めて準備に取り組みました。一人でも多くの若手の先生方に循環器内科の良さや楽しさを感じていただき、将来的に多くの仲間が増えるきっかけになってくれればと願っています。

四国の循環器医療がさらに発展し、患者さんのためにより良い医療を提供できるよう、みんなで頑張っていきましょう。

近森病院 日本医療機能評価機構 感謝状

日本医療機能評価機構より、感謝状をいただきました。

同機構の30周年に際し、日本で3番目の認定病院として評価更新を続けてきたことが理由です。2027年には当院も認定30年を迎えます。

皆さまの信頼にこたえる医療を今後も提供してまいります。

職員募集中！

募集職種

- 医師
- 看護師
- 介護福祉士
- 救急救命士
- 理学療法士
- 作業療法士
- 言語聴覚士
- 薬剤師
- 診療放射線技師
- 臨床検査技師
- 事務

3,000とおりの誇れる仕事

詳しくは、近森会グループHPの採用ページをご覧ください。

栄養で支えるがん治療

近森病院 臨床栄養部

近森病院 臨床栄養部
管理栄養士 主任
田部 大樹
たべ だいき

吐き気を感じる時は

がん患者さんにとって「嘔気・嘔吐」は起こりやすい悩みの一つですが、その要因は患者さんによって様々です。たとえば、胃の手術後はその影響で、薬物療法中は副作用によって吐き気が起こりやすいと考えられます。要因によって対応は異なりますが、一番大切なのは「無理をしないこと」です。

無理をしてはいけない理由の一つに、吐き気には「予測性嘔吐」というものがあります。過去の経験や不安から、実際に吐き気がなくても吐き気を感じることがあると考えられています。無理に食べようとすると吐き気が強くなり、食事を考えるだけで吐き気を感じてしまいます。

そのため、吐き気がある時は無理に食事をせず水分（スポーツ飲料など）をこまめに摂りましょう。かき氷のような冷たくあっさりしたものや酢の物、香味野菜（大葉や生姜）を使った料理などが食べやすいと思います。これらの料理を試しつつ、吐き気が落ち着けば少しずつ栄養の量が摂れるよう内容を考えていきましょう。

お勧め

冷たくあっさりしたもの、酢の物、香味野菜など

看護学校通信

ホームカミングデイ（※）

2025年8月30日

近森病院附属看護学校 専任教員 松浦 美樹
まつうら みき

今年3月に卒業した8期生のホームカミングデイを開催しました。教員のオカリナ演奏に始まり、学生時代のスライドを見ながら卒業生たちは「懐かしいね」と笑顔があふれ、思い出話に花を咲かせました。

近況報告では、「実習中は毎日焦っていた」「看護師になって、患者さんとコミュニケーションを取りたいけど時間が作れない」など、学生時代の思い出や看護師としての悩みを語ってくれました。一方で「楽しかった」「家みたいな感覚」との言葉も聞かれ、本校が卒業生にとって安らぎの場であることを改めて感じられるひとときとなりました。

※ホームカミングデイ…卒業生が「家に帰る」という気持ちで母校を訪れ、同窓生や教職員との交流を深めるイベント。

空の架け橋プロジェクト

目標金額達成 1,324万1千円

私たちが取り組んでまいりましたクラウドファンディング「空の架け橋プロジェクト」は、皆さまからのご厚意により、目標金額である1,000万円を超えるご支援をいただき無事達成いたしました。

この挑戦を通じて、私たちは“地域とともにある病院”であることを、あらためて実感いたしました。お一人お一人のご支援は、単なる資金にとどまらず「高知を守りたい」「未来に備えたい」という皆さまの想いそのものであり、私たちにとって何よりの励ましとなりました。

南海トラフ地震に限らず、あらゆる自然災害においても災害拠点病院として診療機能を止めることなく命を守る責務を果たしてまいりたいと考えております。そのような私たちの思いに、皆さまが力を添えてくださったことに心より深く感謝申し上げます。

どうかこの機会に、災害への備えの大切さに少しでも関心を寄せていただけたら嬉しいです。そして、高知の医療の未来を一緒に守っていけたら、これほど心強いことはありません。

今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

2025年8月1日

社会医療法人近森会 理事長　入江 博之

第10回 病院体験ツアー

2025年7月31日・8月1日

医療の現場を身近に

近森病院 消化器外科 主任部長
塚田 暁 つかだ あきら

中学3年生から高校3年生を対象とした、第10回病院体験ツアーを開催しました。今回は10部署を回り、それぞれの部署の仕事を、実際に使用している医療機器やシミュレーターを用いて体験してもらいました。また、体験時には各部署のユニフォームを着用することで、よりリアルに医療の現場を感じてもらえたのではないかと思います。

病院は多くの職種が協力し合って成り立っている場であることを理解してもらい、さまざまな職種の役割に触れることで、医療の世界への関心をより深めてもらう機会となりました。

最終日のまとめでは、参加者全員に修了証をお渡ししました。その際、皆さんの笑顔がとても印象的で、今回の体験が少しでも将来を考えるきっかけになってくれたらと願っています。そして、いつか近森病院で一緒に働ける日が来ることを楽しみにしています。

最後に、忙しい日常診療の合間にご協力いただいた各部署の職員の皆さまに、心より感謝申し上げます。

ER
救急医療の現場

- 医師から救急現場の説明
- 人形を使った心臓マッサージ体験（BLS）
- エコー（超音波検査）体験
- Drカーの装備紹介

循環器内科
心臓カテーテル治療

- シミュレーターを使用してのカテーテル治療体験

消化器外科
腹腔鏡手術体験

- 手術室での腹腔鏡体験

消化器内科

内視鏡治療の実際

・医師からの説明
・シミュレーターを用いた内視鏡検査体験

看護部

やってみよう! 看護師さんの仕事

・人形を使用して、心音、お腹の音、肺の音、瞳孔チェック体験（正常時・異常時比較など）

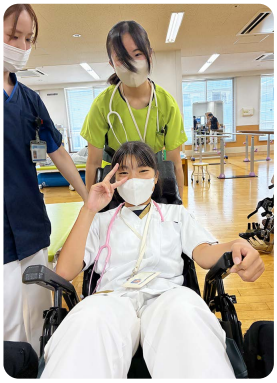
未来へJump!

薬剤部

薬剤師さんの仕事って?

・スライドショーレクチャー
・薬局案内
・調剤体験
・高カロリー輸液の開通体験や注射剤の配合変化を実見

リハビリテーション部（PT・OT・ST）



リハビリテーションの仕事って?

・運動療法、車いす体験、舌圧測定など

臨床工学部

臨床工学技士さんってどんなことしてるの?

・ICU見学
・熱傷ベッド体験
・ジュースを透析装置に入れたら、どんな味になる?

臨床検査部

臨床検査技師さんの仕事って?

・輸血検査室で血液型判定体験
・生理検査室で心電図、超音波検査体験

画像診断部

画像撮影どう写る?

・診療放射線技師から説明
・X線の特徴を紹介
・CTで果物や魚を撮影してみよう
・MRIの磁力を感じてみよう

インドネシア人スタッフさん 高知見聞録

インドネシア人スタッフ3期生歓迎会＆交流会

2025年8月18日／管理棟職員食堂

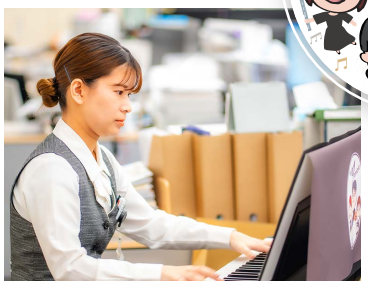
▼お世話役の尾﨑部長を囲んで。

3期生の歓迎会を兼ねて、看護部がインドネシア人スタッフ全30名を招待し、交流会を開催しました。

途中、今年チーム「ちかもり」でよさこい祭りに参加したスタッフが踊りを披露したり、スピーチコーナーがあったり、賑やかに和気あいあいと交流を楽しみました。

お昼音（ひるね）アンサンブル ～管理棟＆保育室そると 出張～

2025年8月29日



お昼休みに音楽はいかがですか？

医事支援部 医事課 課長補佐　上甲 浩道（じょうこう ひろみち）

私たちは、管理部のランチタイムに音楽の華を咲かせるグループ、その名も「お昼音Ensemble（アンサンブル）」です！管理部から音楽好きが集まり、管理部職員のために2025年1月よりお昼休みの20分間程、癒やしの時間を提供しています。リクエストいただいた曲を中心に、“お昼音オリジナル編曲”でフルート、ピアノ、ヴィオラ（たまにバイオリン）の豊かなハーモニーを楽しんでいただけるよう、心を込めて演奏に臨んでいます。

また8月からは保育室そるとへも出張演奏に。子供達の楽しそうな笑顔に私たちが元気をもらいました。

「聴きに行っていいのかなぁ…？」と思っている皆さん！気軽に聴きに来てください！心地よい音楽できっとあなたを笑顔にします（頑張ります！）。また聴きに来ていただけたら、大変励みにもなります。管理棟であなたをお待ちしています♪

近森会グループで元気に働く仲間を紹介します

熱烈応援 昇格人事

スタッフとともに発展していけるICUを

近森病院 ICU病棟 看護師長
齋坂 美賀子（さいさか みかこ）

この度、ICUの看護師長を務めさせていただくことになりました。

重症患者さんを生活者として尊重し、身体の安定とともに、患者さんの生きる力を取り戻し、支えるケアの構築を目指します。そのために、スタッフに寄り添い導きながらともに歩み、新たなクリティカルケアを創造できるICUづくりを支援していきたいと思います。

職員のための総務であり続ける

総務部 総務課 課長代理
田村 達彦（たむら たつひこ）

このたび総務課課長代理を拝命いたしました田村です。労務管理や規程整備、職場環境の充実など総務実務に誠心誠意取り組み、円滑な業務運営に尽力いたします。安心して働き続けることができる職場を目指して、一つ一つの課題に向き合ってまいりますので、今後とも変わらぬご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ハッスル研修医

近森研修の情熱、舞う

初期研修医 1年目 **川添 達也**（かわぞえ たつや）

研修医として働き始めて早くも半年が経とうとしています。上級医の先生方やコメディカルの方々には日々大変お世話になっております。この半年間で社会人としても医師としても、少しずつ成長を感じております。

さて、つい先日よさこい祭りが行われました（8月執筆）。踊り子たちは皆楽しそうで、雨さえも吹き飛ばすような熱気を感じました。高知県26年目ですが、改めてよさこいの魅力に惹かれた2日間でした。今年は応援に徹しましたが、来年は踊りたいと思います。今年踊った人も踊っていない人も是非一緒に踊りましょう！

仕事もイベントもよさこい祭りのように情熱を持って全力で舞いながら日々成長していけるよう頑張りますので、これからも何卒よろしくお願いいたします。

2025年度 職員旅行

四万十川本流 鮎友釣り

2025年7月7～9日

14ページ「ぶらり旅」の問いの答え：妻籠宿はあららぎ川の河岸段丘に出来たやまあいの宿場ですが、馬籠宿は山の尾根上にあり、水の便が悪く、過去に繰り返し大火事に遭ってきました。

リレーエッセイ

おばんざい海幸に集合で!

経営企画部 企画課
中平 光保 なかひら みほ

友人が自分のお店をオープンさせるというビッグニュースを聞いたのは2年前。この、「おばんざい海幸(みゆき)」は私の中高時代の友人が高知市横浜に開いた飲食店です。自宅で釣具屋を営んでおり、その一角を改装して作られました。

暖簾をくぐると、「いらっしゃい」と笑顔で迎えてくれる友人やその家族。私には「おかえり」と聞こえてしまうような、そんなアットホームなお店が私の友人たちとの集合場所です。ここで、それぞれの場所で活躍している友人たちの話を聞き、刺激を受けることが私の励みとなっています。

そして、お腹を満たしてくれるのは、美味しい料理と新鮮なお魚たち!時には、友人本人が釣ってきたお魚も提供してくれます。看板メニュー"日替わりおばんざい全部盛り"や旬な"戻りカツオのお刺身"、個人的に好きな"大将の焼き豚"…、今にもお腹が鳴りそうです。

さぁ、お腹がすいてきているそこのあなたも、おばんざい海幸に集合で!

私の趣味

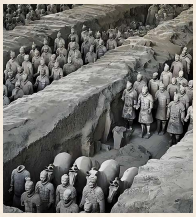
旅の魅力

近森病院 手術室 看護師
曹 馨睿 そう しんるい

私の趣味は旅行です。旅行の魅力は「発見」の喜びです。未知の場所を探索し新しい文化や人々と触れ合う貴重な経験です。

普段の生活では味わえないような景色や文化、食べ物を目にすることで自分の視野が広がります。特に食文化に興味があり、各地の独特な料理を味わい、食文化を通してその土地の人々の生活や歴史に触れることができるのです。

また、旅行は人との出会いがあります。言葉や文化が異なっていても共通の感情や経験を共有することで心のつながりを感じることができ、心のリフレッシュに。日常の忙しさから離れ、自然の中で過ごす時間や、静かな場所で自分と向き合うことができます。



中国国内では、故宮や兵馬俑(へいばよう)のような歴史的な遺産を訪れることも、私にとって大きな癒しとなっています。歴史の中に埋もれた物語に触れることで、自分自身の生き方や考え方にも新たな気づきが生まれることがあり、これからもいろいろな場所を訪れてみたいです。

FREE 私の〇〇(まるまる)

〇〇にフリーワードを入れて語っていただきました

私の「癒し」

臨床工学部 CSチーム
臨床工学士
山本 あゆ香 やまもと あゆか

私の癒しは、自然の中でのんびりと過ごす登山です。山の空気に包まれて歩いていると、時間の流れがゆったりと感じられ、心が自然とやわらいでいきます。

写真は、徳島県にある剣山を登った時のものです。登山リフトがあり道も整備されているので、体力に自信がなくても無理なく楽しめるのが魅力です。山頂に立つと、360度に広がる四国山地の景色が静かに心を癒してくれます。

そして、もうひとつの楽しみが山小屋や山頂で食べるお昼ご飯。青空に映える山並みや緑の稜線を眺めながら食べると、何を食べても不思議とおいしく感じられます。

皆さんも、自分だけの癒しを見つけに、山へ出かけてみませんか?

近森相談役の ぶらり旅

中山道の風情ある 馬籠宿（まごめじゅく）・妻籠宿（つまごじゅく）

紅葉まっ盛りの10月下旬、馬籠宿から旧中山道をたどって妻籠宿までぶらりと行ってきました。馬籠村に生まれた島崎藤村の「木曽路はすべて山の中である」を体験できた歴史の道でした。

ちなみに、妻籠宿は江戸時代の建物がよく残っていますが、馬籠宿は何回もの大火事で昔の建物はあまり残っていません。何故でしょうか？

（答えは12ページの下）

江戸から43番目の宿場、馬籠宿

▲高札場　法令を板面に記し、往来に掲示、民衆に周知させていた。

▲一石栃立場茶屋（いちこくとちたてばちゃや）
馬籠宿と妻籠宿の中間にある旅人の休息所。

江戸から42番目の宿場、妻籠宿

▲上嵯峨屋
江戸中期の庶民の「木賃宿」。食事付きの「旅籠」に対し、自分で持参した食材を調理し、薪代（木賃）を支払っていた。

近森の社会見学

四国電力本川発電所見学会

2025年8月21日／参加者数：35名
近森会スタッフ対象

四国電力様に、本川発電所見学会を開催いただきました。発電の仕組みを親子で学べ、夏休みの楽しい思い出になりました。

編集室通信

4月に開幕した大阪・関西万博も、閉幕まであとわずか。当初は簡単に取れたチケットも、今では入手困難になりました。最初は不思議な存在だった公式キャラクターのミャクミャクも、自身のファッションにトリコロールが多いことに気づき、今では愛着を超えてシンパシーを感じています。この特別な時間を、最後まで満喫したいです。　陽

診療数 2025年8月

―― 電子カルテ管理課 ――

● 近森会グループ

外来患者数	16,111人
新入院患者数	1,040人
退院患者数	1,074人

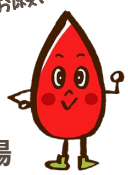
● 近森病院（急性期）

平均在院日数	12.62日
地域医療支援病院 紹介率	102.62%
地域医療支援病院 逆紹介率	320.73%
救急車搬入件数	607件
うち入院件数	336件
手術件数	562件
うち手術室実施	358件
うち全身麻酔件数	256件

近森病院 献血

10/16（木）
12:30～17:15
400㎖限定
場所／近森病院 総合受付玄関前駐車場

ご協力お願いします！



人物ルポ Reportage
Vol.398

山下 高明 Takaaki Yamashita

精神科（総合心療センター）医師
救急科専門医／麻酔科標榜医

聞き手／ひろっぱ編集部

“人の役に立ちたい”回り道で見つけた本当にやりたいこと

ジャズの流れる空間で

総合心療センター6Fにある和室、あぐら姿でニコニコと出迎えてくれた山下医師。そばに置かれた携帯電話からはジャズが流れている。この取材のために「場」を温めてくれていたのが伝わった。「場」を整えることは取材の要（かなめ）なので、その心遣いが嬉しい。

30歳の時に医師を目指し、救急医から精神科医となり近森病院に入職された山下医師。エキセントリックな回り道人生をかいつまんでお話しいただいた。

アジア放浪でのトラブルと出会い

出身は東京都渋谷区。幼稚園は竹下通りにあり、人の川を横切り通園していた超シティボーイ。1つ目の大学は早稲田大学商学部。20歳でアメリカのカレッジへ留学。帰国後は就職活動というレールから外れ、サーフィンショップでアルバイトをしながらサーフィン三昧の毎日を過ごす。が、段々飽きてきて20代も終わる頃、虚無感に襲われて人生探しの旅に出ることにした。

旅の最初はタイへ。もともとマッサージが得意ということもあり、古式マッサージを習得に行ったタイでいきなり宝石詐欺に遭う。これは『地球の歩き方』の最初に書いている有名な詐欺であることを後に知る。さらにベトナムでは、「アオザイBarに行かないか?」の甘い言葉に乗せられ拉致を経験した。若気の至りとは怖いものである。

薄いラバー製の手作りサンダル。「本当は裸足で過ごしたい」そう。その方が、神経が足元に向けられるのだとか。

山下医師からの忠告：「旅行前は、ガイドブックの安全情報最新版を必ずチェック！」（読む人の方が多いですよ（笑））

三十にして立つ

旅の途中で転機が訪れる。年輩の日本人の旅人から「我欲はトラブルを呼ぶ。自分の欲を満たすだけでは人生たいしておもしろくない」と助言をされた。「この言葉をきっかけに、人に喜ばれる生き方を求めるようになりました」。その後、心を救う人になるために禅寺で修行なども経験したが、ある日、事故現場に遭遇。怪我人を前に何もできなかった自分の無力さを痛感した。「心も大切だが身体を治せなければと思いましたね」。この経験が、医師になった大きな理由である。30歳の時である。

そして、サーフィンのメッカということもあり高知大学医学部に入学。高知と縁が生まれ今に至る。

休日は海・山・川・家

家族は妻と小学生の子ども3人。“精神科に転科した今の僕を語るには外せない存在”が、9歳になるダウン症の長女。山下医師がテンション低めの時も、忖度せずに近づき癒してくれるそう。「自分が甘えたい時だけ甘えてきて、僕が甘えると『ひげが痛い』って逃げるんですけどね」。

休日は長男と一緒に少林寺拳法を習ったり、子どもたちと一緒に海、山、川へ行くなど家族と過ごす。山下医師が見せてくれた家族写真からは、温かな眼差しと家族の絆を感じられた。

旅は続く これからも

救急医時代、自らを傷つけ運ばれた患者さんらとよく話し込んでいた。その様子を知った大学の先輩、森医師（近森病院総合心療センター科長）から誘われ近森病院の精神科へ。「僕にとって医師として働くことは手段であり、本当にやりたいのは人の役に立つこと。僕のできることで地域や周りの方のお役に立ちたいのです」とまとめてくれた。

30歳から医師を目指したこと。救急医から精神科医に転科したこと。どちらも猛勉強が必要で容易ではない。アジア放浪と聞くと自由人のイメージも強いが、山下医師は、ずっとずっと、自分の心に矢印を向けては「人のためになっているか」と問い、実践を重ねている。その歩みは、まるで修行僧のようにも思えた。

当面の目標は精神保健指定医になること。医学的知見をさらに深めながら、垣根を見せない山下医師独自の寄り添い方で、苦しみや傷みのある人の心に希望の光を運べますように。

一歩先の医療、一つ先の未来。CHIKAMORI HEALTHCARE GROUP
社会医療法人 近森会　院内広報誌　ひろっぱ 10月号 Vol.471
発行日　2025年9月25日　発行者：近森 正幸／事務局：寺田 文彦
高知市大川筋一丁目1-16　TEL.088-822-5231
https://www.chikamori.com/